



クラスの中の外国人

はじめに

年々、クラスの中に外国にルーツをもつ生徒が増えてきている。外国にルーツをもつ児童生徒に対して文化の違いや、見た目を理由に、差別や偏見が起きることはしばしばある。しかしながら、日本の中にも異なる文化や考え方がたくさんあるが、外国にルーツのある児童生徒達に抱くような感情は、日本人の児童生徒に対して、抱いていないように感じる。例えば、日本人に対してカレーを手作りして出した時に「カレーを食べられない。」と言われると「(好き嫌いかな?)仕方ない。」と思うものの、インド人が「カレーを食べられない。」と言うと、「インド人なのに(せっかく作ったのに)。」と誤ってしまわないだろうか。

以下に紹介するワークを通じて、日本の文化に対する自分の考えを改めて認識し、同じ時期に生まれ、同じ土地で育ってきたクラスの児童生徒達の中にも文化に対して様々な考えがあることに気付く。また、それぞれの文化は自分で作り上げているものなのか、社会が作りだしたものなのかについて考え、文化の生まれた背景について考えていきたい。そして、それらの習慣(文化)を自分は変えることができるのか、できないのかについて、自分の考えを相手に伝える。この活動を通じて、外国にルーツをもつ人たちの中にも、それぞれ個人個人で文化に対する考えが異なることに気付いてもらいたい。

アクティビティの解説

この教材では質問に対する各自の考えを挙げ、それぞれがもつ考えを聴く。次に、それらは社会が作り上げてきたものか、自分が作りだしたものなのかの二つに分類し、習慣(文化)を変えられることができるのか、互いの意見を交流することを目的にしたアクティビティである。

ねらい

日本人は同じ習慣(文化)を持っていると思っている児童生徒達が、日本の中にも様々な習慣(文化)があることに気づく。

習慣(文化)に対するそれぞれの認識が異なることを知る。

学習計画

(1) 日本の習慣(文化)について、様々な考えがあることを知ろう。

教科・領域との関係

道徳、総合的な学習の時間、特別活動等。

アクティビティ1 「日本の異文化に気づく。」

●ねらい

日本の中の様々な習慣(文化)について意見を交流し、同じ時期に生まれ同じ地域で育った人たちの中にも様々な考えがあることに気づく。

●主な対象

小学生以上

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

「日本の習慣（文化）カード」（P29）、分類シート（P30）（いずれもグループ数分）、ワークシート①（P31）（全員分）

●所要時間

45～50分

●用語の解説

外国にルーツを持つ子ども

親の両方または片方が外国籍を有する児童生徒のこと。生まれた国が母国の場合もあれば日本の場合もある。または、両親ともに日本人であるが、外国で生まれたり、一定期間外国で生活したりして後に帰国した児童生徒のことをいう。

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 世界にはいろいろな習慣（文化）があるが、日本にも様々な習慣（文化）があることを確認する。</p> <p>2. 4～5人のグループに分かれる。 各グループにP29の「日本の習慣（文化）カード」を配布し、「あなたは、このカードに書かれているような習慣（文化）がありますか。」と問いかけ、自分の習慣（文化）についてグループで話し合う。</p> <p>3. それぞれの「日本の習慣（文化）カード」の内容は、社会が作り上げてきたものか、自分が作りだしたものなのかを考え、自分はその習慣（文化）を変えられるか変えられないかについて意見を交流しながら、分類シートの4つのカテゴリーに分類する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の中でも文化は多様で、自分と全く同じ文化を持った人が少ないことに気づかせる。 • 合意形成は目的としないが、どのような意見が出たのか交流する。 <p>日本の中にも様々な文化があり、様々な考えがあるように、外国にルーツをもつ人たちの文化に対して固定観念をもつのではなく、人それぞれ異なった考え方があるということに気がつく。</p>
<p>ふり返り</p> <p>4. ワークシート①を全員に配布する。 今の「わたしの気持ち」をワークシート①の指示に従って記入する。 ワークシート①の内容をグループで伝えあう。</p>	<p>1時間の学習をふり返る。</p>

「日本の習慣（文化）カード」

（切り離して使用してください）

①遠慮して思ったことが相手に言えないことがよくある。

②どんな時でも時間を守って行動する

③広島に住んでいる限りカープファンであるべき。

④何かの順番を待つときは並んで待つ。

⑤日本人は、一日一回は必ず米を食べる。

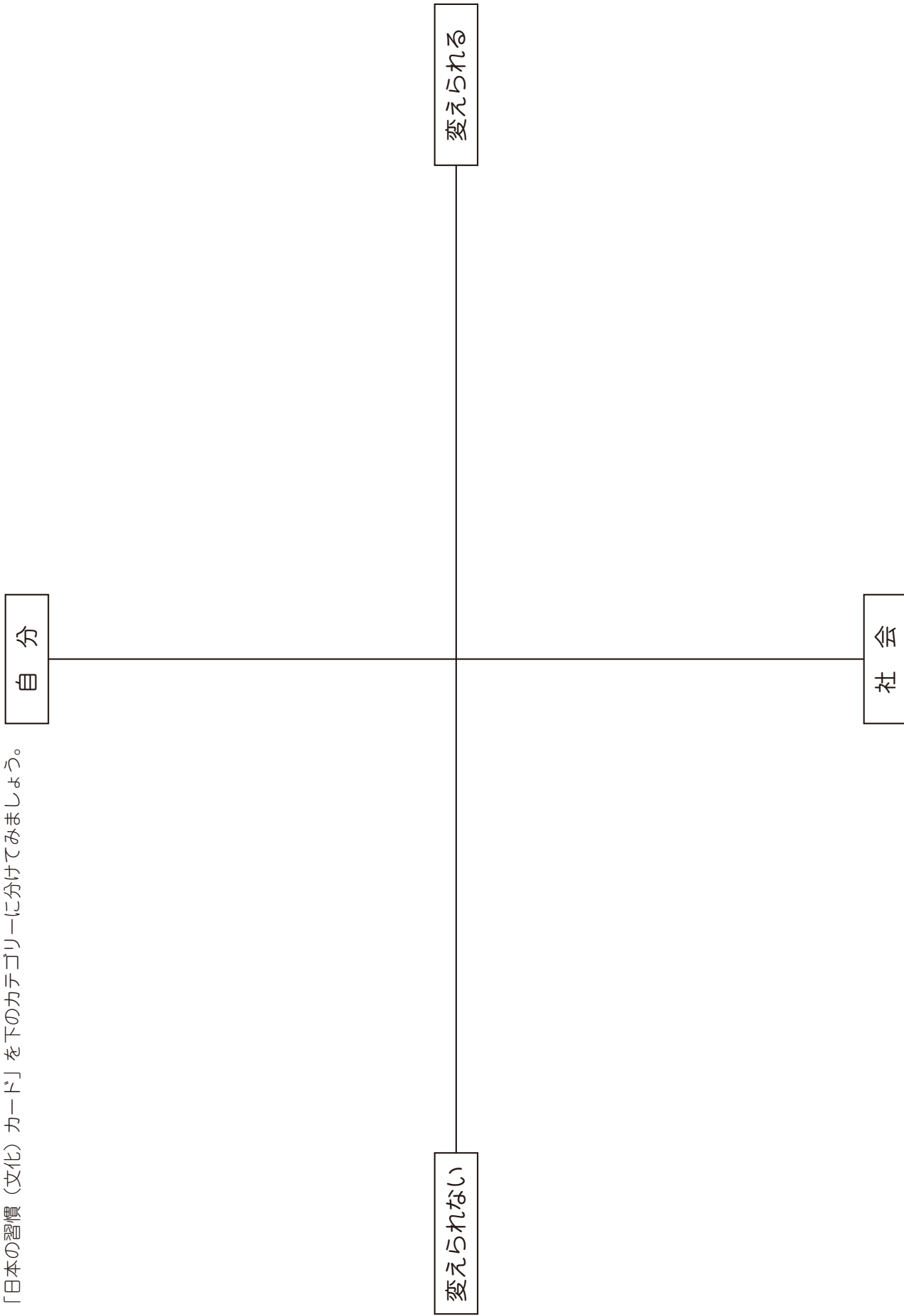
⑥結婚したら女性が名字を変える。

⑦結婚して子どもができたなら、母親が育休をとる。

⑧箸は必ず正しい持ち方でもつ。

⑨日本人は目上の人を立てるのが当たり前である。

「日本の習慣（文化）カード」を下のカテゴリーに分けてみましょう。



わたしの気持ち



ワークショップを行って、わたしの気持ちは…

驚いた	興味深い	知らなかった
変わりたい		気付いて いなかった
楽しい	どうにもできない	不安

- ◆上の中から、自分の気持ちに最も近いものを2つ選んで○をつけましょう。
- ◆リストにない気持ちがあれば、真ん中の空欄に書いてください。

選んだ理由を書いてください

アクティビティ2 「外国につながりをもつ友達のためにできることを考えよう。」

●概要

近年、外国につながりをもつ生徒が、学校で様々なことに困難を感じている。彼らが実際に、困っていると感じていることを、自分事として考え、児童生徒達が自分達にどのような配慮や行動ができるのかについて考えていく。

●ねらい

日本の児童生徒も、外国にルーツをもつ人達にも、学校が過ごしやすい場所にするために、自分達にできることは何かを考える。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

ワークシート② (P33) (全員分)

●所要時間

45分～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. ワークシート②を全員に配布し、自分が海外の学校に留学する場合、どのような気持ちになり、どのように対処するのか各自で考え、ワークシート②の1.～4.に記入する。</p> <p>2. グループで意見を共有し、ホームステイ先の人達に分かってほしいこと、配慮してほしいことは何かを考える。</p> <p>3. ワークシート②の5.に記述されているような外国につながりのある児童生徒達が困っていることを読んで、1年間楽しく生活できるようにするためには自分が相手に対してどんな配慮をすることが望ましいかを考え、6.に記入する。</p>	<p>・将来、海外で学習する機会がある人もそのつもりがない人も、自分事として考えられるよう声をかける。</p> <p>・自分が外国に暮らす人として感じたことを記入させる。</p> <p>・2で考えたことを踏まえながら、外国につながりのある児童生徒の気持ちになって考えさせる。</p>

ワークシート②

()年 ()組 氏名()

1. 海外の学校に留学することになりました。期待に胸を膨らませて行った留学先では、次のような文化がありました。

A：友達は日本語がわかりません。	B：食事はいつも手で食べています。
C：肉はほとんどの人が食べません。	D：家の中でも靴をはいています。

2. A～Dの文化を知って、最初にどのような気持ちになりますか？

A：	B：
C：	D：

3. A～Dの文化に対して、あなたはどのような行動をとりますか？
(自分の行動を相手の文化に合わせる・合わせない)

A：	B：
C：	D：

4. 1年間楽しく学校で生活するために、自分が海外で相手に配慮してほしいことはどんなことですか。

--

5. 今、日本の学校の中で、外国につながるの児童生徒が学校の中で困っていること。

A	日本語が難しく、なかなか友達の言葉を聞き取れない。日本語を話した時に、からかわれてしまう。
B	自分の国にはない校則や規律になかなか慣れない。
C	掃除の時間や給食の時間など、自分の生まれ育った国ではなかったので、慣れることが難しい。
D	ハーフであることや肌の色で特定のイメージや偏見を持たれている。

6. 上の例を参考に、楽しくお互いが学校で生活するためには、自分が外国につながるの児童生徒に対して配慮することはどんなことですか。

--

おわりに

“外人（ガイジン）”。私たち日本人は、外国にルーツをもつ人々に対してよくこの表現を使う。しかしながら、この言葉は、外国にルーツをもつ人々にとって時に冷たい言葉に聞こえてしまうことがある。日本人に“（日本の外から来た人）”と考えられ、日本人と区別され、日本に馴染まないと、差別を受けてしまうことさえある。また、近年の学校現場では、外国にルーツをもつ子どもが年々増えているが、様々な問題も生まれている。これから先、ますます多様な社会になり、多文化社会が当たり前になる中で、私たちの、外国にルーツをもつ人々に対する考えを、見直さなければならないと考える。そのために必要なことは、自分自身の生活、文化や行動を見つめなおすことである。本学習プログラムは、日々の教育活動の中で、子ども達が「これまで気が付かなかった新しい自分」に気付くことができるための取り組みの一步としたい。

参考文献

- ・『「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」時事問題を教室へーグローバル・エクスプレス』
（認定特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR））
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』
（独立行政法人国際協力機構 中部国際センター）
- ・NHKハートネットHP「外国ルーツの子ども達と作る学校」